

感覚経験を豊かにする布絵本の制作とその教育的効用について

About the production and the education use of the cloth picture book which makes feeling experience rich

水谷亜由美*・夫馬佳代子*・渡邊雄介**

Mizutani Ayumi, Fuma Kayoko and Watanabe Yusuke

*岐阜大学教育学部家政教育講座

**あじろ診療所 ひめゆり療育センター

1. はじめに

絵本は、幼児の世界を広げ、豊かな体験ができるものとして、重要な保育内容の位置づけがなされている。布絵本に関する先行研究は多数見られるが、特に布絵本の制作普及に力をいれている団体の1つとして、ふきのとう文庫がある。この先行研究¹⁾からは、布絵本の特徴としてぬくもりのある布からできていること、愛情あふれる手作りが基本であること、遊びの条件を満たすおもちゃであることを挙げて、精神的、身体的、知的に大きな効用をもつ可能性を示唆している。

これまでに保育園の1歳児クラスと3歳児クラスと親子教室での活用を目的に布絵本を制作し、活用実態を調査してきた。1歳児クラスでは探索活動や発語促進に、3歳児クラスでは知的好奇心と想像力の育成に効用があることが明らかとなっている。

また、親子の活用では母親の声かけや模倣によって遊びの幅が広がり、楽しみを共有できると分かった。しかし、これらの調査からは集団での利用によってコミュニケーションの効用が期待できるが、幼児の身体発達、精神発達、着脱行為などの日常生活につなげるためにはじっくりと取り組める個別での利用が効果的であることも分かった。

そこで、さらなる布絵本の教育的効用の可能性を広げるため、療育を受ける幼児を対象とし、療育での活用を目的とした布絵本の制作と実態調査を行うことを目的とした。療育での活用では、五感の感覚経験を豊かにすること、さらに

手指の巧緻性を高めることが期待されるが、本論では感覚経験を豊かにする布絵本の制作とその活用実態の調査に取り組み、若干の知見を得たので報告する。

2. 研究方法

(1) 研究の構想と方法

本研究の療育場面で幼児・児童の力を育てる布絵本の構想については、図1、2に示す。

感覚経験を豊かにすることを目的とする布絵本の研究は図3に示す流れで行った。

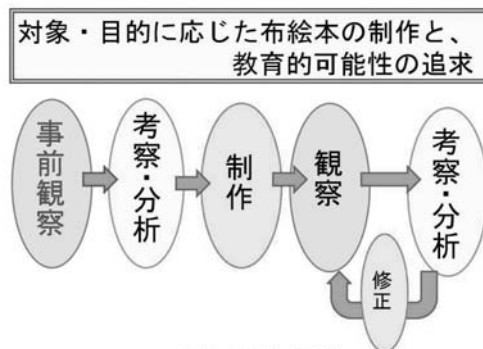


図1. 研究目的

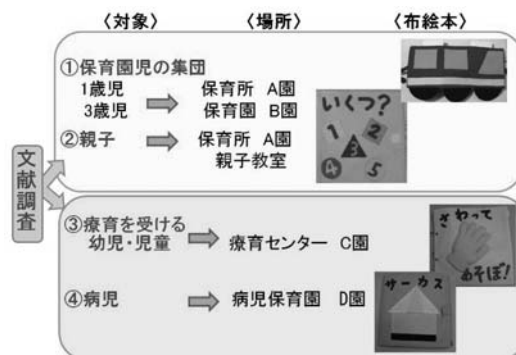


図2. 研究構想

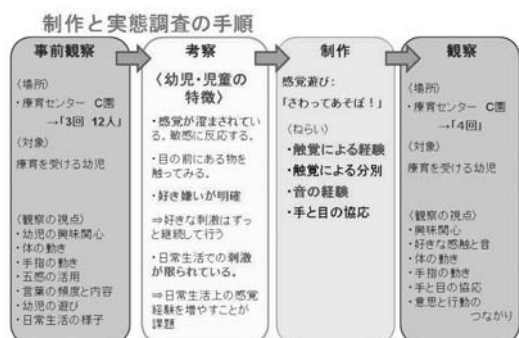


図3. 感覚経験を豊かにする布絵本の制作と実態調査

まず、療育を受ける様子を観察し、幼児・児童の興味関心や、五感の活用、体や手指の動きを中心に把握する。一人ひとりの幼児・児童の発達段階と、今後の課題を明確にし、感覚経験を豊かにする布絵本による効用が期待される幼児・児童を対象者とする。次に、事前の観察を基に明らかとなった幼児・児童の特徴と療育に必要な要素を取り入れ、布絵本を制作する。このようにして制作した布絵本を療育で活用し、幼児・児童の行動や反応を観察し、布絵本の教育的な可能性と課題の追究を行う。

(2) 調査対象・時期

調査場所は、療育センターC園とする。事前調査は平成20年11月に3回行い、制作布絵本の活用実態調査は平成20年12月に4回行った。

尚、今回の対象児に対して事前に研究の趣旨を保護者に対して説明し、参加することの承諾を得た。

3. 事前観察の結果

(1) 観察記録の事例

- 1) 5歳男児脳性まひ(以下CP)の事例 (表1)
- 2) 11歳男児CPの事例 (表2)

(2) 事前観察の結果と対象者の設定

療育を受ける様子を観察した12人の特徴は表3のようである。12人の興味関心や発達段階と課題を検討し、感覚経験を豊かにする布絵本の教育的効用が期待できる幼児・児童を8人選出した。中でも、事例1の5歳男児と、事例9の7歳男児は音や感触に敏感に反応する特徴を持ち、療育においても感覚を養うような活動が行われているため特に効果が期待できると考える。

表1 病院観察記録

平成20年11月 療育センター C園

事例1 幼児：5歳男児CP

活動	作業療法士の行動	幼児の発話・行動	特徴
布絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○布絵本を提示する。 ○布絵本を見ようと提案する。 ○紐を引っ張ろうと提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○布絵本に触れる。 ○布絵本をめくる。 ○紐を引っ張ろうとせず、どんどんめくっていく。 ○本のビニールの部分を折り曲げて音を鳴らす。 ○本を縦向きにめくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「パコパコ」という音が好き。 ○いつも横にめくる本を読んでいるため、本は横にめくるものだと認識している。
	<ul style="list-style-type: none"> ○布絵本を縦向きに変えて、一緒にめくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○首を振り、視線は網へ向く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つまらなくなったり、いやなときは好きな網を見る。
ボール	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを提示する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボールを手で握って、つぶす行為をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ポコポコ」という音とビニールがつぶれる感触を好む。赤、青など色の鮮やかな物を好む。白や黒は好まない。
おもちゃ	<ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃを提示する。 ○玉を手渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○玉が上から下へと落ちる様子を見ている。 ○下に落ちてきた玉を上に向けて転がす行為を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○上から下へと落ちるような動きのあるものを好む。 ○好きな行為は何度でも繰り返す。
絵本	<ul style="list-style-type: none"> ○ドラえものの絵本をテーブルに載せる。 ○違う雑誌をテーブルに載せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本をめくる ○雑誌を押しつけ、ドラえものの絵本がいいと要求する。 ○本を折り曲げて「パコパコ」と音を鳴らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○厚い紙から薄い紙まで療育する。男児の場合は、絵本が読める程度を目標としている。
穴にさす	<ul style="list-style-type: none"> ○ボードとこまをテーブルの上に置く。 ○穴に刺そうと提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○押しつけようとする。 ○こまを手にするが、投げる。はめようとはしない。 ○ボードを片付けようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「やらされる」ことを嫌がる。訓練的なことは嫌がる。
ぬいぐるみ	<ul style="list-style-type: none"> ○一緒にぬいぐるみをとりに行く。 ○一緒に紐を引っ張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぬいぐるみを取りに行く。 ○ぬいぐるみを頬につける。 ○作業療法士と共に紐を引っ張って、振動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○頬や足の裏などで感触を確かめる行動をする。ガサガサした物が好き。
絵描き	<ul style="list-style-type: none"> ○画用紙と色鉛筆を持ってくる。 ○一緒に絵を書こうと提案する。 ○網の絵を描く。 ○紙を目の前で破る。 ○一緒に紙を折る。たたむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○嫌がる。 ○紙を折ったり、たたんだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「パキパキ」「ガサガサ」を楽しんでいる。
歩行	<ul style="list-style-type: none"> ○靴を脱がせて歩行するよう要求する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少し歩くが嫌になって泣く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○靴を履かないと内側に傾いていく。

4. 布絵本の制作

(1) 布絵本の構想²⁾

感覚経験を豊かにする布絵本の構想を図4に、

表2 病院観察記録

平成20年11月 療育センター C園

事例10 児童：11歳 男児CP

活動	作業療法士の行動	幼児の発話・行動	特徴
ストレッチ	○ストレッチをする。	○仰向けに寝て、ストレッチをする。周囲の様子が気になるよう、あたりを見回している。	
布絵本	○布絵本を提示する。 ○椅子に座って遊ぶことができるように椅子とテーブルを準備して着席を援助する。 ○テーブルの上に布絵本を置く。 ○紐を手の届くところに持って行く。	○テーブルの上に置いてある布絵本が気になる様子であった。提示されると自分から触り始めた。 ○椅子に座る。 ○布絵本を触ったり、叩いたり、めくったりする。叩く行為が多い。 ○目の前にあった紐を引っ張ってみる。	○色がカラフルなものに目がいく。原色を使った方がよい。色がはっきりとした布絵本であったため、興味を示した可能性がある。 ○叩く行為をよくする。 ○何かの目的のために行為をするのではなく、たまたま目に入ったものを引っ張ったり、触ったりする。今後、偶然した行為によって物が動いたが経験を重ねながら、意図を持って行為ができるようになることが課題である。 ○ビニールのキラキラした感じが好き。透明感のあるものも好き。ペットボトルのメリーボトルも好きな遊びの一つである。 ○興奮すると足をばたつかせる。
新聞紙	○新聞紙を提示する。くしゃくしゃにして手渡す。 ○新聞紙を破る。 ○紐（タコ糸のようなもの）を提示する。手に近づける。	○手渡された新聞紙をくしゃくしゃと触っていた。新聞紙を叩いたり、新聞紙を持ってテーブルを叩いたりする。 ○足をさらにばたつかせる。 ○新聞紙を一緒に破る。 ○紐が手に当たると、紐をつかむ。引っ張る。	○新聞紙のガサガサした音と、感触を好む。 ○手に触れば、自分から触ったり、つかんで引っ張ったりする。 ○おもちゃも意図を汲み取って遊ぶことは難しい。何回も輪に入れて振動する経験をする。繰り返して振動させたいから引っ張る行為に結びつけた。○布絵本に興味がある。好きなものは手繰り寄せて触ろうとする。
引っ張ると振動するおもちゃ	○引っ張ると振動するおもちゃを提示する。男児の手を引っ張る部分の輪に引っ掛ける。	○手が輪に触ると、作業療法士と一緒に引っ張る。振動する。何回も輪に手を引っ掛けてもらって引っ張り、振動させていた。 ○目の前にある布絵本に手を伸ばす。自分の近くに手繰り寄せていく。	
布絵本	○口に入れられないよう注意する。 ○目の前で紐をひらひらさせる。	○口に入れる。 ○紐をつかむ。 ○布絵本をたたく。	



図5. 布絵本の構想図 「さわってあそぼ！」

構想図を図5に示す。

テーマは、感覚経験を増やす目的から、「触って楽しむこと」とした。日常生活の中で経験する様々な感触や音を布絵本の中で味わう意図を全面的に出し、タイトルは「さわってあそぼ！」と定めた。

ねらいは、触覚による経験と触覚による分別、音の経験、手と目の協応の4つである。対象とする幼児・児童は、感覚が研ぎ澄まされており、敏感に反応する。一方で自由に手足を動かして移動することが困難なために行動範囲は狭まり、経験する感触や音は限られてしまう。従って布絵本の中にカラーシーティングやフェルトだけでなく、タオルやちりめん、ビニールを用いて手触りの違いを味わうことができるようにした。引っ張る行為を好む傾向があると分かったため、魚釣りをイメージして毛糸やゴムなどの紐をぶら下げることにより、つまんだり引っ張ったりしながら様々な感触を経験することを期待している。また、音に対する反応が大きいため、様々な音を楽しみ、その音を聞くためにボタンを押したり、振ったりする行為につなげた。対象とする幼児・児童は好みが明確であり、好きな物は長時間触るが嫌いなものは拒絶する傾向にあった。そのため、自分の好きな感触や音のページで遊ぶことをきっかけとし、新たな感覚や嫌いな感覚のページへとつなげながら触覚と聴覚の経験を広げていくことを意図した。

(2) 布絵本「さわってあそぼ！」の制作過程

「さわってあそぼ！」は図6の手順で制作を行った。完成した布絵本は写真1に示す。

(3) 布絵本「さわってあそぼ！」の仕掛け

「さわってあそぼ！」の仕掛けを図7に示す。

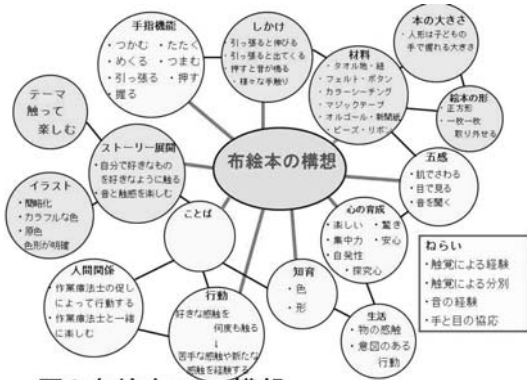


図4. 布絵本の構想 感覚経験を豊かにする目的の布絵本

表3 事前観察記録の結果

事例	年齢	性別	疾患名	感覚訓練	手指の巧緻性	特徴
1	5歳	男	CP	◎ ※	△	<ul style="list-style-type: none"> ・「ポコポコ」「パコパコ」という音とビニールがつぶれる感触を好む。 ・頬や足の裏などで感触を確かめる行動をする。 ・赤、青など色の鮮やかな物を好む。白や黒は好まない。 ・上から下へと落ちるような動きのあるものを好む。 ・つまらなくなったり、いやなときは好きな網を見る。好きな行為は何度でも繰り返し行う。 ・「やらされる」ことを嫌がる。訓練的なことは嫌がる。
2	3歳	男	脊髄動脈奇形	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミで紙を切ったり、糊で貼りつけたりすることができる。 ・ボタンを外したり、留めたりすることができる。
3	2歳	男	多発奇形	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルや布の感触を嫌う。 ・やらないといけない状態に追い込まれると、脱出したいという本能で手を動かす。 ・自分の動かしている手を見ている。目と手の協応性がある。
4	8歳	男	CP	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・マジックテープをはがすことができる。 ・マジックテープを貼り付ける行為は可能であるが、強く引っ張って貼り付けることは困難なためゆるくなってしまふ。 ・3本の指を使って支柱をつまみ、的となる穴に入れることができる。 ・手と目の協応性がある。自分が動かしている方を見て作業をする。時々違う方向を見ているため、手元を見るよう促す声かけが必要である。
5	6歳	男	CP	○	△	<ul style="list-style-type: none"> ・紐が好き。ビニールのつるつるした感触が好き。感触では、ガサガサした感じも好きである。 ・風船が大好きであり、風船を見ると笑い出す。風船を触ると、ずっと飽きることなく遊んでいる。 ・マジックテープは簡単にはがすことができる。もっと大きいマジックテープであれば、びりびりとはがす感触を味わうことが可能であった。また、マジックテープが大きい方が、ザラザラした感覚を楽しむことができ、適している。 ・口の中に物が入り、誤飲する可能性があるため、部品の大きさに注意する必要がある。 ・色は多用しない。
6	5歳	女	CP	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・紐を自分で引っ張ることができる。 ・ファスナーはクリップや輪をつけて握る部分を作ることで、開閉が可能になる。 ・シールを貼ることは難しい。 ・音楽が好き。メロディーを鳴らしたいという欲求から、何度もボタンを押していた。ボタンを押すとなることを理解している。また、同じシールを理解しており、同じシールの鍵盤を押すことが可能である。 ・色はカラフルな方を好む。家庭においてもクレヨンが全部の色を使用して絵を描く。 ・興味の有無を意志表示することができる。 ・大人とのやり取りを楽しむ。
7	3歳	男	広汎性発達障害	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす遊びが好き。危険なこともやろうとする。人よりも、「怖い」と言う感覚がない。 ・手先が器用である。順番に並べていく。手をひねってひっくり返しながらいれこめることができる。ままごとが好き。料理に興味を持っている。普段から料理をしている様子を見ているため、自分も同じ行動をしたいという思いが強い。 ・好きな遊びは長時間続けようとする。
8	4歳	男	CP (右側まひ)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ではなかなか右手を動かせない。作業療法士に動かしてもらいながらストレッチをする。肩に力はいってしまう。 ・何も言わないと、左手を使用してパズルをする。右手を使おうとしない。パズルを2つ、3つをとるよう要求すると、自然に右手から左手にパーツを持ち替え、握っていた。 ・感触を楽しむ。 ・乗り物が好き。
9	7歳	男	CP	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・電車が一番興味を示していた。自分が引っ張ることによって物が動くことに関心が向けられていた。 ・なかなかできなくても、じっくりと集中してやり遂げることができる。 ・右手の方が器用さがある。しかし、右手で作業する時に左手で布絵本本体を押さえることが困難なため、かたく感じている。 ・苦手とするボタンがあると嫌がる。訓練という感覚になってしまうため、ボタンであることが明確に分からないような仕掛けが必要である。 ・びっくりするような仕掛けが好き。何があるのか分からないドキドキ感を好む。 ・自分で金具に紐を通し、マジックテープを貼ることができる。前よりも早くなりたという向上心がある。自分でマジックテープを貼ると、どうしてもマジックテープがゆるくなってしまふ。
10	11歳	男	CP	◎	△	<ul style="list-style-type: none"> ・色がカラフルなものに目がいく。原色を使った方がよい。色のはっきりとした布絵本であったため、興味を示した可能性がある。 ・何かの目的のために行為をするのではなく、たまたま目に入ったものを引っ張ったり、触ったり、叩いたりする。今後、偶然した行為によって物が動いた経験を積み重ねながら、意図を持って行為ができるようになることが課題である。 ・ビニールのキラキラした感じが好き。透明感のあるものを好み、ペットボトルのメリーボトルも好きな遊びの一つである。新聞紙のガサガサした音と、感触を好む。 ・布絵本に興味があると考えられる。好きなものは手練り寄せて触ろうとする。
11	10歳	男	オプソクローヌスミオクロニー症候群	△	△	<ul style="list-style-type: none"> ・中から何かが出てくるドキドキ感が好き。ゲームが好き。勝ちたいという気持ちが強い。ゲーム感覚の遊びに効果があると考えられる。 ・手と目の協応性がある。手元をよく見ながら、細かい作業をすることができる。 ・紐を結ぶことが可能。ちょうちょ結びはまだ困難である。ピンをつまんでカードと同じ位置を考えながら、差し込むことができる。
12	9歳	女	CP	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・手指を動かして、細かい作業をすることは可能であるが、「めんどくさい。」と言ってやりたがらない姿がある。ボタン、スナップと留め外し、ファスナーの開閉を行うことができる。スナップの穴の位置を下から覗いて確認しながら的を定めて留めていた。 ・大人とのやり取りを楽しむ。会話をしながら一緒に作業をすることを好む。 ・衣服の着脱、靴の着脱を自分で行うことができる。

※(感覚訓練を目的とした布絵本との適合を ◎適している ○まあまあ適している △あまり適していないと記号で示した。手指の巧緻性を目的とした布絵本との適合も同様に示す。)

材料		※付属品
※布類		○ハイアステープ (青) 40cm (緑) 45cm (ピンク) 75cm
○カラーシーチング (黄色) 90cm幅×75cm (水色) 90cm幅×30cm (白色) 90cm幅×30cm (ピンク色) 90cm幅×30cm (黄緑色) 10cm×10cm		○ゴム (緑) 25cm (黒) 20cm
○格子柄の布 30cm×16cm×2種類		○丸紐 (青) 20cm (緑・黒) 160cm
○ちりめん (青) 15cm×20cm		○リボン (ピンク) 20cm (青) 130cm (青緑) 7cm
○タオル地 (赤) 10×20cm		○毛糸 (黄・青・ピンク)各30cm (星) 3個
○ビニール 10cm×10cm		○ビーズ (丸) 12個 (角丸) 3個 (星) 3個
○パネロン芯(極厚ハード) 90cm×120cm		○ボタン (赤) 4個 (黒・丸) 1個 (黒・四角) 2個
○フェルト (赤) 1枚 (緑) 1枚 (茶) 1枚 (黄) 1枚 (白) 1枚 (黄緑) 1枚 (ピンク) 1枚		○手袋 1個
		○糸 7個
		○マロディーカード 2種類
		○スポンジ 1個
		○画紙 2個
		○押し箸 2種類
		○カードリング 2個
		○はとめ 10セット
		○マジックテープ

図6-1 材料

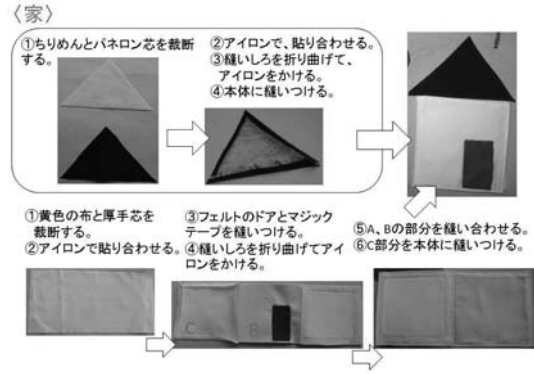


図6-5 製作手順4

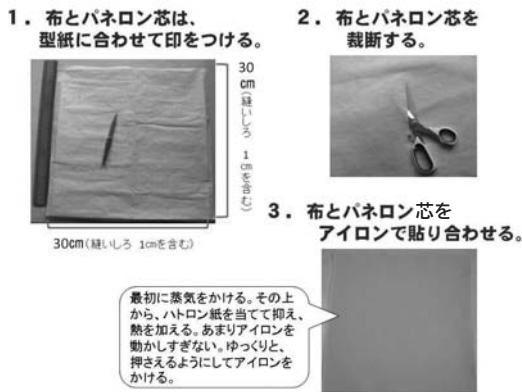


図6-2 製作手順1

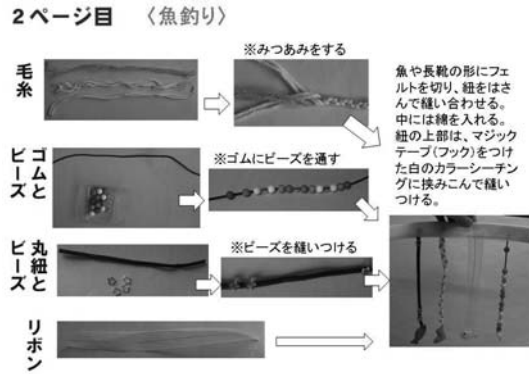


図6-6 製作手順5

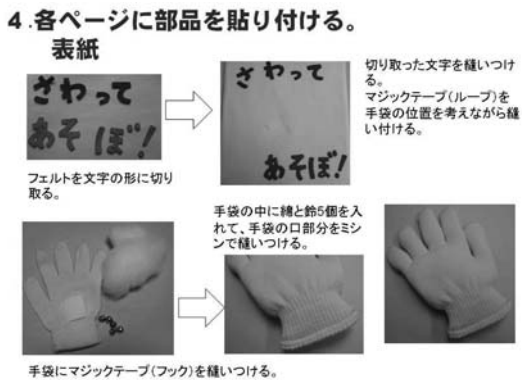


図6-3 製作手順2

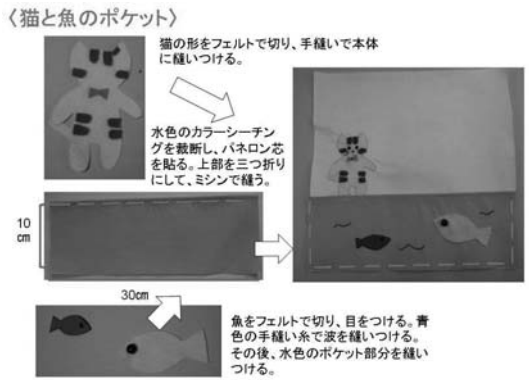


図6-7 製作手順6

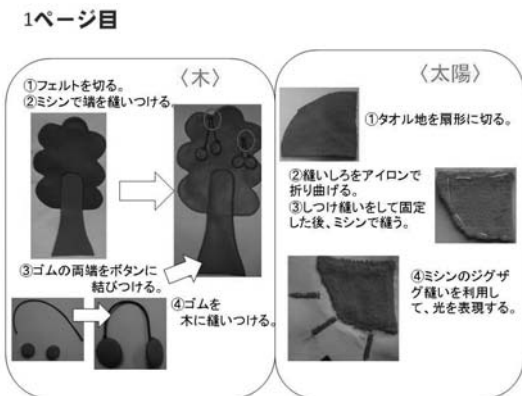


図6-4 製作手順3

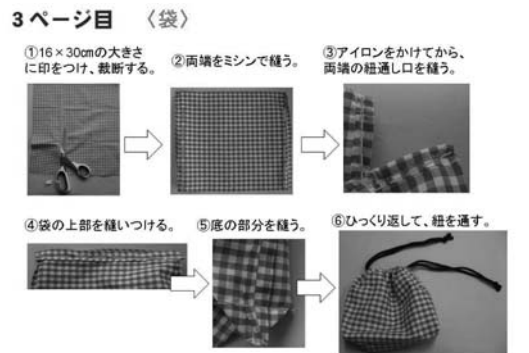


図6-8 製作手順7

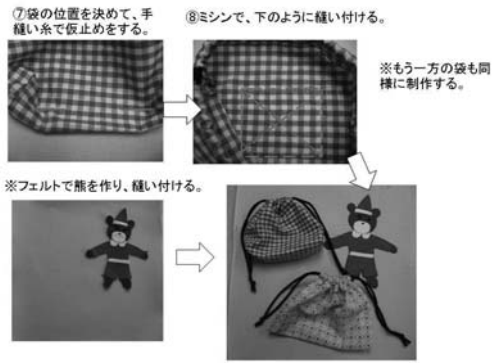


図 6-9 製作手順 8

5. 各ページを中表にして重ね、返し口を残して縫い合わせる。
※各ページの組み合わせ



6. 縫い合わせたら、アイロンで縫いしろを割る。



7. 表向きに返し、返し口の縫いしろをアイロンで折る。
8. 返し口を縫い合わせる。

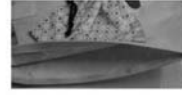


図 6-13 製作手順12

4 ページ目 〈円〉

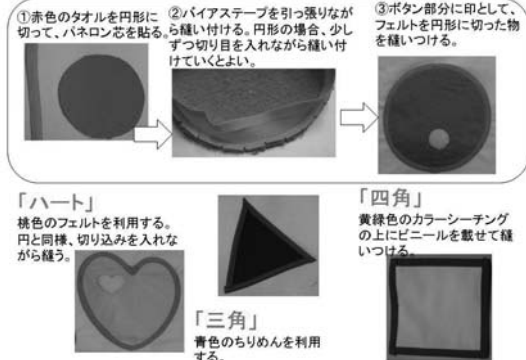


図 6-10 製作手順 9

9. はとめをつける。

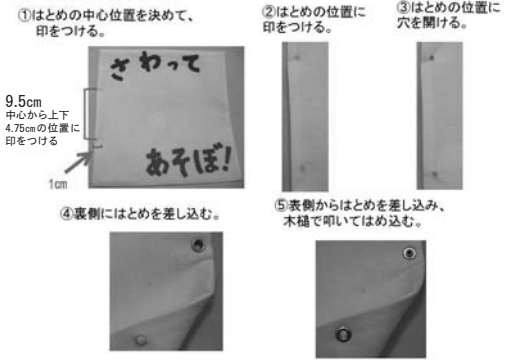


図 6-14 製作手順13

〈メロディー〉

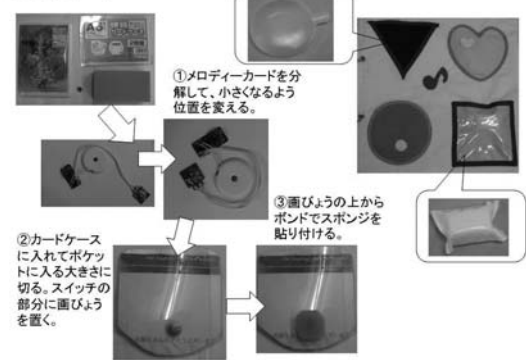


図 6-11 製作手順10

10. 各ページの穴にリングを入れ、本にして完成。



図 6-15 製作手順14

裏表紙

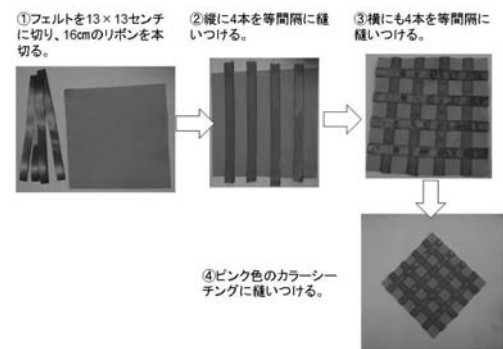


図 6-12 製作手順11

写真1

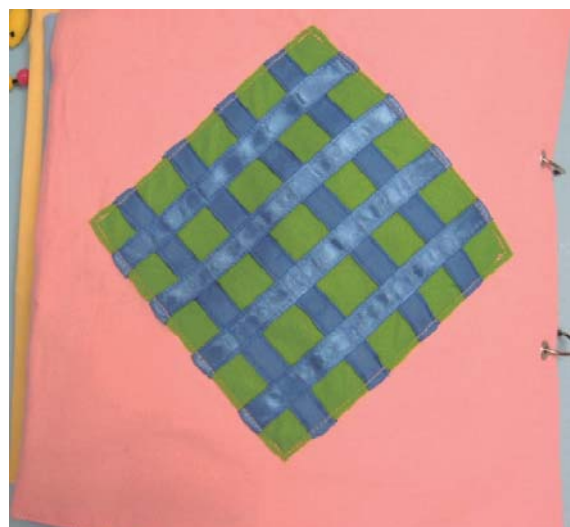
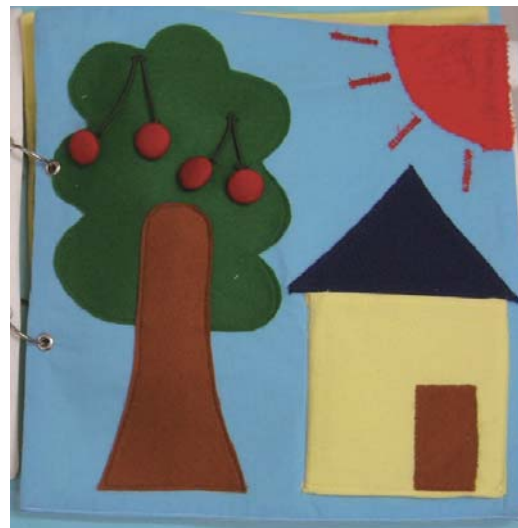


写真1. 完成した「さわってあそぼ！」



図7. 布絵本の仕掛け「さわってあそぼ！」

布絵本を活用することで様々な感覚を経験することができるよう、多種の素材を利用し、制作を行った。まず、表紙の手袋は握ることで綿のふわふわした感触を味わい、手に持って振ることによって鈴の音を聞く仕掛けを取り入れている。

1 ページ目には、木をフェルトで、太陽をタオルで、屋根をちりめんで作成し、家はマジックテープをはがしてビリビリとめくる感触を感じることができるようにした。マジックテープをめくった後にループの面とフックの面に手を当てて、ざらざらした感触を味わうこともできる。サクランボはボタンをつまんで引っ張る仕

組みになり、鈴をつける改良によって引っ張る行為と鈴の音を関連づけている。

2 ページ目は、日常生活の中でよく使われている丸紐、毛糸、リボン、ゴムを使用し、魚釣りをイメージしながら4種類の紐を触る仕掛けを取り入れた。特にゴムは、引っ張ることによる伸び縮みとビーズの色や触り心地を楽しむこともできる。魚はポケットの中に隠れているため、何が出てくるのだろうかという好奇心から普段は触らないような紐にも触ることができるのではないかと期待する。

3 ページ目は、袋の中にスーパーボールやお手玉、おはじきなどを入れ、触り心地を楽しんだり、つまんで出したりができるようになっている。最初は袋の外から中身を想像することによって、硬さや大きさ、形を認識する力と想像力につながると考える。次に、袋を開け閉めする行為で手指の巧緻性を高め、最後に袋の中の物を取り出しながら感触の違いを味わうことができる。袋の中身は、幼児・児童の興味あるもの、苦手なもの、感触の楽しめるものなど工夫することができるように留意した。

4 ページ目は、音と形、色、感触の違いを味わえるようになっている。音への強い反応を生かし、音を鳴らしたいという思いから4種類の生地を触ったり、押したりたたいたりする行為に結びつけたいと考える。生地はタオル、ちりめん、フェルト、ビニールを使用し、音は押し笛と「ジングルベル」「Happy Birthday」のメロディーを取り入れている。

裏表紙は、格子模様をリボンで制作した。格子模様には強いこだわりを持っていた幼児がいたため安心をもたらす目的と凸凹した感触を味わう目的がある。

以上のように、多種の素材を利用し、触ったり音を聞いたりしながら、五感を働かせる経験を目的とした仕掛けを取り入れるよう工夫した。

5. 布絵本「さわってあそぼ！」の活用実態

事前観察の結果、感覚経験を豊かにする布絵本の効用が期待されると判断した8人の活用の実態と特徴について以下に示す。

(1) 事例1 5歳CPの男児

最初に作業療法士（以下OT）が布絵本を提示するが、触る様子はない。手袋が手に触れると触るが、意識的ではない様子であった。

OTが2ページ目を開くと、男児はすぐにポケットの部分を手にした。ポケットの下の方を両手で触って、パコパコと折り曲げていた。（写真2）男児は、プラスチックのような固いものを折り曲げる行為を好む。ポケット部分は布が重なり合って他の面よりも固くなっているために、固い感触を味わっていたと考えられる。



〈写真2 ポケットを折り曲げる様子〉

3ページ目の袋では、OTが袋の口を開けると、中から物を次々としていた。スーパーボールは、手で握っては放す行為を繰り返す、お手玉は、感触を気に入った様子が見られた。（写真3）口に持っていく場面も多く、興味深さは予想以上であり、ページを変えようとしても、手で押しつけて袋のページに戻す姿があった。袋の中に中身がなくなっても、まだ何かあるのではないかと覗き込んでいる様子が観察された。袋は幼児・児童の関心を育てている様子が見られた。



〈写真3 お手玉を握る様子〉

4ページ目の音のページでは、OTと一緒に

ボタンを叩いて音を鳴らしていた。音が鳴ったときはどこから鳴ったのか不思議に感じて探している姿もみられた。

(2) 事例4 8歳CPの男児

布絵本の表紙の部分では、手袋に関心を示していた。マジックテープを容易に外し、振ったり握ったりしていた。（写真4）



〈写真4 手袋を触る様子〉

1ページ目で最も興味を示していたのは、木の実であった。ボタンをつまんで引っ張るよう促されると、思い切りゴムを握って引っ張る行為を繰り返していた。家のマジックテープは、促すとはがすことができた。マジックテープをはがし終わった後も、ポンポンと叩いて貼り付けていた姿が特徴的であった。太陽については、全く興味を示す姿が見られなかった。

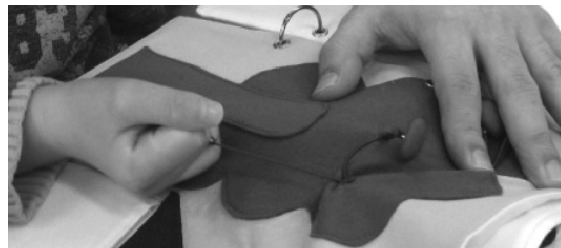
2ページ目の魚釣りでは、丸紐、毛糸、リボン、ゴムを全て触ることができた。一度握ると、思い切り引っ張るため、上部のマジックテープがはがれる場面が何度か見られた。また、特徴的な行動としては、魚を猫の口元に持って行った姿である。魚を猫に食べさせる様子をイメージしていたと考えられる。

3ページ目では、袋の閉め方を教授することによってできるようになった姿は、布絵本の狙いとしていた点の実現であると言える。輪に手を通すことは難しいため、OTが輪に手を通した状態から手を持たれて一緒に引っ張っていたのだが、何度も横に引く行為を繰り返した結果、自分の意志で横に引いて閉めることができたようになった。（写真5）中に入っているスーパーボールにも興味を示したようで、触ったり投げたりの行動を繰り返した。

4ページ目の音には強い興味を示していた。



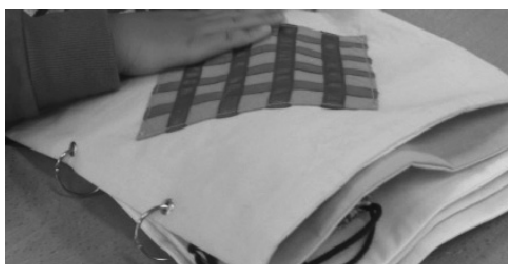
〈写真5 紐を引っ張る様子〉



〈写真7 木の実を引っ張る様子〉

三角と四角の押し笛に関しては、驚いた表情を見せながらも、手を叩いていた。自分で指先を使って押す姿が見られた。ハートと丸のメロディーは、よほど驚いたのかそれまでの言動をやめ、音楽に聞きいていた。鳴り終わると自分で鳴らそうとボタンの位置に手を置いて押すが、なかなか鳴らず、怒りだす姿もあった。感度を上げたつもりであったが、まだ児童にとっては固かったのだと気付かされた。

裏表紙の格子模様に関しては、OTに促されると格子模様をなでて触る姿があり、感触を味わっている様子が観察できた。(写真6)



〈写真6 格子をなでる様子〉

(3) 事例5 6歳CPの男児

布絵本の手袋は、自分からマジックテープを取り外し、ふわふわした感触が気に入った様子でしばらくずっと握って放そうとしなかった。手袋の指先部分を口に入れる姿も見られた。

1ページ目では、木の実を気に入っていた。保護者の方の話から、引っ張ることに興味を持っていることを聞いたが、思い切りゴムが伸びきるまで引っ張る行為を何度も繰り返していた。(写真7) 家のマジックテープは、OTに促されるとめくり始めた。しかし、硬くてなかなか思うようにめくれず、途中でやめて戻す場面が何度もあった。しかし、促されると再度めくり始め、最終的にはめくりきることができた。(写真8) 太陽のタオル部分は口に持って行く姿が



〈写真8 マジックテープをはがす様子〉

見られた。

2ページ目の魚の部分でも、ゴムを好んでさわわり、思い切りゴムを引っ張っては放す行為を繰り返していた。(写真9) ゴムを放した時の危険性を認識した。キラキラしていることや、ゴムで伸びることに興味があるのだと考えられる。他の毛糸やリボンにはOTの促しがあっても触ることはなかった。



〈写真9 ゴムを引っ張る様子〉

3ページ目は、OTが袋を開けて、スーパーボールに注目するよう促した。すると、中からボールを取り出して、ボールを握っては放す行為を繰り返していた。時々ボールを投げる姿も見られた。袋にはあまり興味をもたなかったのだが、目立つようにしてあると目を引いて触りやすいことが分かった。

4ページ目の音楽の仕掛けは、音が鳴るとびっくりした表情を見せた。押し笛は、自分から何度も手を乗せて叩く姿があった。叩くとなことを理解し、叩いていることが分かる。メロディー

については、最初はどこからなっているのか分からないといった様子で、首を回して探すしぐさをしていました。次第に、自分で鳴らそうとしてボタン部分を触るのだが、力が足りないために鳴らなかつた。

（４）事例６ ５歳CPの女兒

布絵本を提示すると嫌がって押しのけたが、何度かOTが手袋を振り、マジックテープを取ったり貼りつけたりしていると、女兒もマジックテープを取ったり貼りつけたりするしぐさをした。

１ページ目の木の実のは、促しに従って引っ張っていた。家のマジックテープには興味を示したようで、自分からとって握ってマジックテープをはがす姿が見られた。（写真10）



〈写真10 マジックテープをはがす様子〉

２ページ目の紐は、自分から触ることはなかつたが、ビーズのついたゴムは気になっている表情を見せた。

３ページ目の袋は、自分で袋を開けたものの、すぐに片付けようとした。そこで、OTがスーパーボールを取り出し、弾ませるしぐさをして見せた。すると、女兒も真似をしてスーパーボールを弾ませていた。スーパーボールには興味があったと考えられる。袋の開け閉めは紐を持って、容易に行っていた。（写真11）



〈写真11 紐を引っ張って袋を開める様子〉

４ページ目の押し笛は、OTの真似をして叩く姿があった。しかし、メロディーはボタンを

押すが音を鳴らすことはできなかつた。女兒に対してはまだスイッチは固いものであったと考えられる。四角のビニールはつまんでいる姿が見られ、ビニールの感触を手で味わっていたのではないかと考えられる。

（５）事例８ ４歳CPの男児

布絵本に対して、期待の高さが感じられたが、布絵本を取り出すと手袋を拒絶する姿が観察された。手袋の感触が嫌いなのかかもしれないと推測する。だが、OTが手袋は音がすることを伝えると少し興味を持った様子で、手袋を振る姿も見られた。

１ページ目の木の実や太陽には興味を全く示す様子は無かつた。家の部分については、ドアを叩いてからマジックテープをめくり、右斜め上の位置から下に引っ張ってマジックテープをはがしていた。家の中に何かいることを期待して開けていたため、何も無いことを知ると、残念がる様子が見られた。家の中にも工夫が必要であった。

２ページ目の魚釣りは、全部の紐を触っていた。全部の紐を取り出して、魚をポケットの上に置いて並べていた。ビーズのついたゴムは気になっている様子だった。丸紐についた赤い魚をリングの中に入れ込む姿やポケットに描かれた魚の目のボタンを触る姿もあった。そして、しばらくすると長靴を手にした。長靴を手に持つとポケットに描かれた魚の口元に「ご飯だ。」と言いながら笑っていた。おかしいと分かっているが、いたずらの気持ちでこのような行動をとったと考えられる。

３ページ目の袋は、男児が最も興味を示していた部分である。袋の上から手を載せて探っていたが、OTの促しによって袋を開け始めた。最初は左手だけの操作であったが、OTに右手の使用を促されると、右手も袋の口に持って行って左右に引くようにして開け始めた。（写真12）自分からはなかなか右手を使おうとしないが、やりたいことがあるときに促されると右手も使用しようとする様子が見られた。そして、やっと袋を開けると中からでてきたスーパーボールに大興奮し始めた。スーパーボールと同様に袋の中に入っていたビー玉やお手玉にはそれほど



〈写真12 袋を開ける様子〉

興味を示さなかったが、中を見たいという気もちは強いようで両手を使って袋の口を開けたり、閉めたりを繰り返していた。袋を閉めるときも、左手だけで閉めようとしたが、OTに促されて、右手もひもを持った。そして、左右に紐を引っ張って閉めることができた。(写真13)



〈写真13 袋の口を閉める様子〉

4 ページ目の音では、スーパーボールに夢中の時に偶然音が鳴り出したために興味がひきつけられた。どうしたら鳴るのか少し考えて、左手の人差し指と中指で押そうとするが鳴らない。手の平で押すよう促してみると、促しどおり手の平で押し、音楽が鳴り始めた。鳴った直後は喜んでいただけだが、すぐに音を止める方法を探す姿も見られた。ハートのボタンは体の位置から離れているために最初は鳴りにくかった。本を逆さにすることでボタンに力がかかりやすくなり、音が鳴る結果となった。また、興味深かったのは、2回目に丸のボタンを押した時には、左手の2本で押していたことである。指に力を入れて押していることが分かる。ボタンを付けることで押しやすくなったと考えられる。

押し笛については、四角のほうは喜んで鳴らしていたが、三角の方は一度鳴らすと、怖がって次からは鳴らすことをためらっていた。男児にとっては、恐怖を感じる音だったのかも知れない。しかし、音には興味があるため、鳴らそうか否か迷っていたと考えられる。

(6) 事例9 7歳CPの男児

1) 1回目

布絵本の表紙においては、マジックテープを用意に取り外して、手袋を握っていた。探究心が旺盛であり、マジックテープの部分にも仕掛けが無いか、開くことはできないか探っている姿が見られた。

1 ページ目の木の実や家の仕掛けも、男児にとっては簡単な操作であり、促されるとすぐにボタンをつまんだり、マジックテープをめくったりしていた。

2 ページ目の魚釣りの仕掛けでは、OTがゲーム感覚の遊びに転換した。その遊び方は、4つの紐のうちから1つしかない長靴を引いたら当たりとするゲームである。そのため、事例9の男児にとって易しすぎる内容のものでも、楽しく紐を触ることができていた。幼児・児童のレベルに合わせて、提示の仕方を工夫することの大切さを実感した。また、紐の先にあるマスコットが魚よりもキャラクターである方が楽しめたことが本人の感想から分かった。

3 ページ目の袋の開閉も簡単に行っていた。スムーズに両手を使用して中から物を取り出したり閉まったりしていた。また、袋の外から触った感触から中身を想像していることも分かった。ガサガサとした手触りと音から想像したと考えられ、五感を使用して遊ぶ目的につながる姿であることが分かった。

4 ページ目の音では、押し笛を簡単に鳴らしていた。メロディーに関して、指で何度かチャレンジしていたがやはり音はなかなか鳴らない様子であった。どうしても鳴らそうとした結果、男児はグーでメロディーのスイッチを押して音を鳴らすことに成功した。(写真14) やはりスイッチが硬すぎて幼児・児童には音を鳴らすこ



〈写真14 スイッチを叩いて押す様子〉

とは困難であると分かった。

2) 2回目

2回目の実践は、前回と違うところを探すゲームのような感覚で真剣に布絵本を見始めた。そして、悩みながらも、木の実に鈴がついたことに気が付き、鈴を手にした。続いて家のとってにも気づき、簡単にとって握ってマジックテープをはがす姿が見られた。

袋のページでは、袋の口を自分で開け、袋の中をのぞき始める。中身を取り出し、前は無かったおはじきとビー玉やこま、お手玉に気づくことができた。

メロディーのページでは、OTの促しによって、メロディーのボタンを押していた。前は、ボタンがない状態であったため、なかなか鳴らすことができなかったが、今回はボタンを取り付けたことによって指先で押して鳴らすことができていた。(写真15) ボタンを取り付けた意義を感じることができた。

(7) 事例10 11歳CPの男児



〈写真15 ボタンを押す様子〉

1) 1回目

OTが布絵本中の手袋を手渡すと、手袋を手にとった。そして、叩くようにして振って、鈴の音を楽しんでいる。(写真16) 鈴が気に入った様子で、ずっと握っていて放そうとしなかった。口元に持っていく事も多く、一番興味を示した部分であり、次のページを見た後、再度利



〈写真16 手袋を握る様子〉

用をした。さらに、黄色の手袋は、立つ練習にも活用をされた。机上手袋を置いて、それを取りたい気持ちから立って前に手をつく活動であった。

2ページ目の魚釣りでは、一通り全部の紐に触れて握っていた。一度触れると握って放そうとしなかった。OTが4つの紐を並べておくと、赤い魚のついた丸紐を選んだ。原色の赤色は目に入りやすかったのではないかと考えられる。また、ゴムも伸びることが楽しい様子で、何度か触っていた。(写真17) また、全ての紐に関して一度握ったら放さないことや、思い切り引っ張り続けることから、何度も遊んでいるうちに劣化すると予測された。取替えが可能である必要性も見えてきた。



〈写真17 ゴムを引っ張る様子〉

3ページ目では、紐が好きであることから袋の紐を真っ先に触って引っ張っていた。袋の外から袋を触る姿もあった。スーパーボールやお手玉を袋の外に出すと握るだけではなく、口元に持っていくことが大半であり、誤飲の危険性と、衛生上の問題に注意する必要性があると感じた。

4ページ目では、ページをめくるとすぐに四角のビニールの部分をさわりはじめた。ビニールの感触を好んでいる様子であった。ビニールをつまんだり、叩いたりしていた。(写真18) メロディーに関しては、何度も触って叩いてはい



〈写真18 ビニールに触る様子〉

たものの、音は鳴らなかった。CPの幼児・児童は大変柔らかなスイッチでなければ作動させることが出来ない。メロディーのスイッチ自体を制作していく必要があると言える。

男児は、自分の気に入った部分は長時間触れていた。握って放そうとしない姿が観察された。今後、それ以外の部分にも幅を広げていくことが期待される。

2) 2回目

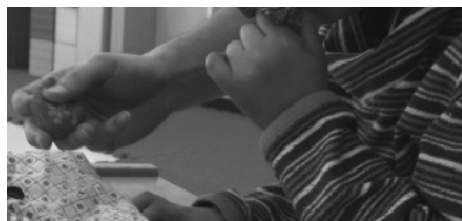
手袋を提示した際、手足をバタバタと動かしながら、すぐに手が伸びた。手で手袋を握って、思い切り振って音を楽しむ様子が観察された。

1 ページ目における木の実のゴムも伸びるため、つまんで握ったり、引っ張ったりし、2 ページ目の紐は、全部を触っていた。目の前にある紐が手に触れると握り、体の方へ引き寄せようとしていた。ゴムに関しては特に気に入った様子で、何度も引っ張る行為を繰り返す様子が見られた。(写真19)



〈写真19 ゴムを引っ張る様子〉

3 ページ目において、スーパーボールやお手玉を握った手を振って動かし、口元に持っていく行為を繰り返していた。(写真20) 前回も同じような行為を行っていたことから、お手玉とスーパーボールの感触が気に入っているのだと考えられる。



〈写真20 お手玉を口元に持って行く様子〉

4 ページ目の音のページでは、三角の部分を押している姿があった。音を鳴らす目的よりは、ただ叩いているのだと考えられる。

2 回目の実践であるが、前回と同じ部分に興味を示し、同じような行動をとることが多かった。音や振動によって楽しみを見出す男児にとって、振りながら音を鳴らしたり、手足を動かしながら物を触ったり引っ張ったりする行為が楽しいのだと考えられる。

(8) 事例12 9歳CPの女児

最初は嫌がっていた女児であったが、OTが手袋を振って音を鳴らすと、興味を示したようだった。手袋を恐る恐る触りながら、叩いたり振ったりしていた。

1 ページ目の木の実や家のマジックテープについても、OTの促しによって操作をしていた。家をめくった時に何も出てこなくて残念そうな表情を見せていたことから、家の中に何か絵を描いておくよかったことが分かる。取り付けた取っ手部分を持って引っ張っていたことから、取っ手の有効性が分かった。(写真21)



〈写真21 取っ手を持ってマジックテープをはがす様子〉

2 ページ目の魚釣りのページでは、事例11の男児と同様にゲーム感覚の遊びを取り入れて、赤い魚を釣ったら当たりと定めることにより、すべての紐を触ることができた。リボンには魚ではなく長靴がついていたことに反応する場面も見られた。

3 ページ目の袋は、自分で袋の口を開けてのぞいていた。スーパーボールをつまんで出したり、2 個を一度に出して握ったりしていた。全部出し終わると、OTと共に袋に入れ、紐を引っ張って袋の口を閉じた。

4 ページ目のメロディーについては、押し笛の音に興味を示していた。音が鳴ると笑い出し、何度も自分から音を鳴らしていた。グーにして押したり、指先で押したり、様々な押し方をしていた。メロディーのスイッチボタンも、人差し指1本で押して鳴らすことができた。(写真



〈写真22 指先でボタンを押す様子〉

22) 女兒はある程度の力があつたために鳴らすことができたと考えられる。

6. 観察記録の分析と考察

(1) 「さわってあそぼ！」の効用

観察記録をもとに幼児・児童の行動特徴を分析した結果、各仕掛けにおいて図8に示す教育的効用が明らかとなった。全体的に見た主な効用は「五感」と「手指の巧緻性」である。

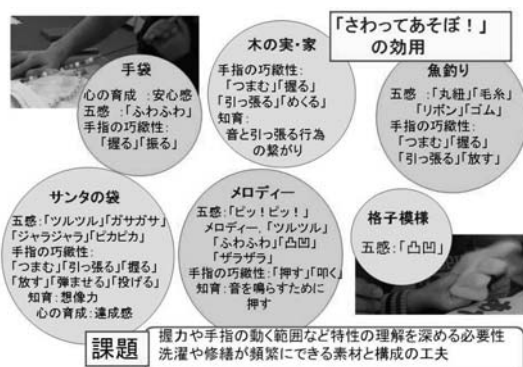


図8. 観察記録の分析と考察

布絵本の目的でもある五感の経験の面では、多種の素材を使用することによりいろいろな手触りと音を感じ、楽しむことができた。特に感触では、手袋の「ふわふわ」した手触りとビニールの「ツルツル」した手触り、ゴムの「伸び縮みする」感覚を好み、一度手にすると放さない傾向にあった。スーパーボールの「ツルツル」した手触りと弾む面白さ、お手玉を握った時の「ジャリジャリ」とした手触りも気に入っている様子だった。手袋やメロディーのページでは、音と結びついていることで自分からタオル地やビニールを触る姿があり、音に対する反応の大きさが顕著に見られた。

手指の巧緻性の面では、「つまむ」「握る」「引っ張る」効用があった。ゴムを伸ばして遊ぶ行為を繰り返す幼児・児童が多く、ゴムの伸び縮みを楽しみながら手や指先で物をつかみ、

力を入れる動作につなげることができた。袋のページでは袋の開閉の動作を習得するなど、探究心から細かな手指の動きを助長する効用もあったと考える。

そのほか、音を鳴らそうとボタンを押す「意図を持った行動」、袋の中身を推測する「想像力」にも効用があったと考える。

(2) 課題

「さわってあそぼ！」を療育に活用する様子から、2点の課題が明らかとなった。1つ目は、幼児理解である。事前観察の結果から、幼児・児童の特徴の把握に努めたが、対象とした幼児・児童には困難な仕掛けや興味をもたない仕掛けがあった。特に、4ページ目のメロディーは手指の力がある幼児・児童しか鳴らすことができなかった。手指に麻痺があり、関節も固くなって曲げることができない。予想以上に自由に手指を動かす力と手指の握力がないことに気付かされた。自分の感覚で仕掛けを制作してしまう傾向にあったため、幼児・児童の握力や手指の動く範囲、可能な行動などの理解を深める必要性が明らかとなった。1度の観察では幼児の特性を理解することはできないため、長期に渡るかかわりを基にした制作が課題となった。

2つ目の課題は洗濯である。今回は洗濯が可能である布絵本の制作を試みたが、洗濯をすると質感が変化する上、一度洗濯を行うと次の活用までに数日間かかる問題点が明らかとなった。対象とする幼児・児童の半数は麻痺のために開口し、活動中も唾液が出てくることが多い。幼児・児童の中には、確認行為のために口元に部品を持って行ったり、口にくわえたりする場面も見られた。唾液による布絵本の汚れは、布絵本の活用の際に保護者の方が気にされていた点であることから洗濯が容易である必要性が分かる。療育で活用する場合、何人もの幼児・児童が利用するため、唾液によって病気が感染する危険性もあることから、洗濯が頻繁にできることが重要な課題と言える。また、力の加減をすることなく、思い切り部品を引っ張ったり、叩いたりする。そのため、何度も活用するにつれてゴムが伸びたり布が破れたり等の劣化が見られた。従って、洗濯と同様に壊れたら壊れた

部分を簡単に補修したり，取り換えたりすることができるような工夫が必要であると考えている。

7. まとめ

療育での活用は，OTと幼児・児童という個別的な環境のもと，一人ひとりに合わせた遊び方をすることが可能となった。感覚経験を豊かにすることを目的として「さわってあそぼ！」を制作したが，多種の素材を取り入れることにより，様々な感触や音の違いを楽しむことの支援ができたのではないかと考えられる。実態調査では自分の好きな仕掛けで十分に遊ぶ姿が観察できたが，今後継続して使用することにより苦手な感覚や新たな感覚へと世界を広げていくことが期待できる。

今後の課題としては，遊ぶ場面で口と接触する機会が多く見られたことから衛生的配慮として洗濯に耐えられる安全な被服材料の使用や，遊びの過程での破損に対応した修繕の工夫を考慮した上で，さらに幼児・児童が楽しみながら感覚経験を豊かにできる布絵本を開発していくことが挙げられる。

なお，本研究の研究方法及び子どもの観察方法について御助言を賜りました岐阜大学教育学部特別支援学校教員養成課程廣瀨先生，実態調査にご協力頂きました福富医院院長福富悌先生，あじろ診療所ひめゆり療育センター藪本保先生，杉山舞先生に書面にて御礼申し上げます。

- 1) ふきのとう文庫 (1979年) : 『手作り 布の絵本』
偕成社
- 2) 加藤正仁 (1984) : 『障害をもつ子の遊びカタログ』株式会社学習研究社
布絵本 コスモス :
<http://www17.ocn.ne.jp/~cosmos03/index.html>
オリジナル絵本「わ」2005年作